

第16回日本認知療法学会のご報告

大阪大学保健センター 工藤 喬

2016年11月23日から25日、大阪梅田グランフロントのナレッジキャピタル・コングレコンベンションセンターにて、学会年次大会（第16回日本認知療法学会ならびに第17回認知療法研修会）が行われ、無事に終了することができました。ここに謹んでご報告いたします。2016年1月1日に学会名称は、日本認知療法・認知行動療法学会と変更になっていますが、本大会では日本認知行動療法学会の旧名称を使わせていただきました。

本大会のテーマは「認知療法・認知行動療法の広がりを見据えて」とさせていただきます。その理由は、うつ病の治療に端を発した認知行動療法が、現在、「3次元的」に広がりつつあると考えたからです。ひとつ目の軸は、対象疾患の広がりです。本大会では、うつ病ばかりでなく、不眠、強迫性障害、パニック障害、PTSD、発達障害、統合失調症、さらには認知症に至る対象のシンポジウム、講演やワークショップを企画しました。また、もうひとつの軸は、施行者の広がりです。ご存知のように今回の診療報酬改定で、看護師による認知行動療法が保険適応となります。それを踏まえた講演やワークショップが用意されました。さらに、本年度には公認心理師が国家資格化することが決まっており、それを見据えたシンポジウムや講演も用意しました。最後の3番目の軸は、対象の広がりです。昨年からは始まりましたストレスチェック制度での認知行動療法の位置づけ、地域ケア、マインドフルネス、ポジティブサイコロジー、あるいはスポーツ心理学への応用などの話題についての講演やシンポジウムも企画しました。

まず、特筆すべきことは、7つもの自主企画シンポジウムのご提案があり、どのシンポジウムも盛況だったことです。中でも、大島郁葉先生企画のシンポジウム「自閉スペクトラム症に対するCBTを生かした支援」は大会企画シンポジウムを含めまして最高の参加者でしたし、武部匡也先生企画の「従来の認知行動

第70号の発刊にあたって

本号のトップバッターは、昨年11月に開催された学会・大会長の工藤喬先生。盛況だった3日間を振り返る、格好の機縁となる報告記です。次に前回大会で承認された「学会事務局業務の外部委託」を、井上和臣先生にご紹介いただきました。「入会／退会の申請方法」「年会費の納入法」などがわかりやすく記されていますので、是非ご一読ください。最後は、今年7月に開催される次回大会の案内。大会長の中川敦夫先生がコンセプトを熱く語っておられますので、ご味読のほどを。

療法と組み合わせて用いるマインドフルネス」や青木俊太郎先生企画の「行動活性化アセスメントを臨床現場で上手に活用するために」なども大盛況でした。

大会企画シンポジウムでは、本大会のテーマの如く、認知行動療法の施行者の広がりを反映して、「チームアプローチ」が盛況でしたし、「認知行動療法が開く新しい公認心理師の世界：これまでの資格と国家資格はどこがどう違うのか」も盛況で、公認心理師への関心の高さがみられました。また、昨年度から始まったストレスチェックも話題となった「職域における認知行動療法の活用」も予想どおり盛況でした。

講演では、教育講演「不安症にたいする認知行動療法：こころのアレルギー反応とその対処法」に圧倒的な参加者が集まり、堀越勝先生の人気の高さがうかがえました。また、ケーススタディのどのセッションにも、シンポジウムを上回る参加者があり、実臨床に対する皆様の熱心さが出ていました。

本大会では、日程の関係上、第1日目を認知療法研修会とし、一部第2、3日目にも研修を企画いたしました。初めての試みとして、前回の年次大会中に企画してほしい研修テーマについてのアンケートを実施し、

*日本認知療法・認知行動療法学会事務局
E-mail jact-admin@umin.ac.jp
URL <http://jact.umin.jp/>

この結果を基に企画しました。アンケート実施時に、「参加者数が上位3名までのテーマ提案者は1ワークショップの受講料を免除する」と案内いたしましたので、大会終了後該当者には返金手続きをさせて頂きました（一部の方は学会に寄付して頂きました）。

本大会は従来の懇親会ではなく、ジャズを聴きながらワインとチーズを楽しんでもらうという企画にいたしました。ジャズはCDも出しておられる、いつも和服の伊良波範子先生にお願いし、素晴らしい歌声とトークを堪能しました。

このように盛会裏に行われた本学会でしたが、唯一残念だった点は、医師の参加者数があまり伸びなかった点です。関東圏と比べて地域差があるのは否めませんが、もう少し医師がコミットするような学会の体制を検討すべきなのかもしれません。

本学会は、日本医師会、大阪府医師会、大阪精神科病院協会、大阪精神科診療所協会、日本精神科看護協会大阪府支部など多くの団体の後援を受けて運営されました。また、学会の性格上難しい共催や寄付を多くの製薬メーカーにさせていただきました。ここに深く感謝いたします。

今回の学会年次大会（第17回日本認知療法・認知行動療法学会と第18回認知療法研修会）は、慶応義塾大学病院臨床研究推進センターの中川敦夫大会長のもと、第14回日本うつ病学会総会との合同開催で、2017年7月21日から23日に京王プラザホテルならびにNSスカイカンファレンスで行われます。テーマは「サイエンスとアートの新たな融合」ということで、うつ病研究と有機的につながった新たな認知行動療法の指針が示されるのではないかと期待しています。

学会事務局業務の外部委託

医療法人内海慈仁会内海メンタルクリニック・認知療法研究所 井上和臣

1998年3月7日の日本認知療法研究会発足、2001年10月26日の日本認知療法学会創設、そして2016年1月1日の日本認知療法・認知行動療法学会への学会名称変更という節目を通して、事務局業務は、幹事（事務局長）があるときは事務局長補佐となり、あるときは事務局員を兼務し、身近な多くの方々のご協力

をいただきながら遂行されてきました。しかし、当初は50名から始まった研究会・学会会員数が2,000名に迫るまでになり、家内工業的な対応では立ち行かない事態が最近では顕著になっています。多くの会員の皆様に業務の遅延や不履行でさまざまなご迷惑をおかけしましたことを紙上をお借りしてお詫び申し上げます。

業務上の弊害を解消する方策として長年の課題でありました、学会事務局業務の外部委託が、先の第16回日本認知療法学会（2016年11月、大阪市）での役員会・総会のご承認を経て、このたび実現の運びとなりました。以下に、委託業務内容をご紹介します。ご参考にしていただくと幸いです。



〈委託先〉株式会社コンベンションリンケージ

〒102-0075 東京都千代田区三番町2番地
三番町KSビル

〈提供機能〉

同社が提供する「ネット事務局」会員管理システムによって、会員の皆様には、会員登録の内容と年会費の納入状況等を、各自の会員向けWebサイトから把握していただくことが可能になります。

1. 入会の申請

入会希望の方には、入会申込フォームを利用し、入会申請に必要な情報を入力いただきます。誕生日をご記入いただくことで、同姓同名問題が解消されます。その後のご連絡はメールを利用しますので、メールアドレスの入力は必須となります。従来通り、推薦者の方のご芳名、ご所属もご記入ください。

申請を受けて、年会費の納入方法をご連絡いたしますので、所定の金額を入金してください。入金が確認された段階で、入会承認に係る手続きが開始されます。入会申請があっても年会費の納入がない場合は、入会には至りません。未納入であることは通知されませんので、ご留意ください。

会計年度は当該年の9月から翌年8月までとなっています。4月から3月ではありません。例えば、2016年8月にご入会の場合、2015年度の新入会員として登録され、2016年9月以降に2016年度の年会費をご請求させていただくことになります。ご了解ください。

2. 退会の申請

退会希望の方は、会員向けWebサイトから退会申請をしていただけます。

このたびの「ネット事務局」会員管理システムには、現会員の方々（1,900名）の登録情報を移行してあります。退会は、申請のあった方以外に、3年以上の年会費未納入を理由に自動的に退会とさせていただいた方も含まれています。累積退会者数は900名にのぼります。情報の移行には経費が必要ですので、この方々の情報は「ネット事務局」会員管理システムには存在しません。会員継続をご希望の場合は、入会申請を改めてしていただくことになります。

年会費の納入状況は、会員向けWebサイトでそれぞれ確認いただけますので、未納入による退会が減少すると期待しています。

3. 年会費の納入

年1回、所定の年会費を納入いただきます。入金はクレジットカードによります。年会費の納入方法は、従来のゆうちょ銀行を利用した振込とは大きく異なりますので、ご注意ください。

年会費については、事務局業務外部委託を想定し、2015年度（2015年9月～2016年8月）以降、納入のご依頼状を会員の皆様にはお送りしていません。年会費の納入依頼はメールでのご案内となります。次回のご依頼では、2015年度3,000円と2016年度（2016年9月～2017年8月）3,000円の合計6,000円を一括してお願いすることになります。

2017年度（2017年9月～2018年8月）からは年会費を増額することが役員会等で決定しています。年5,000円とさせていただきますので、ご了承くださいと幸いです。

4. メールアドレスの登録

従来から入会申込書へのメールアドレスのご記入をお願いしてきました。今後はいっそうメールアドレスのご登録が重要となります。

学会事務局と株式会社コンベンションリンケージでは、会員向けWebサイトのご利用が可能となるように、すべての会員に向けて、2017年早々に、ログインID（会員番号）とパスワードを文書でご通知いたします。

5. お問い合わせ先

「ネット事務局」会員管理システムに関して、ご不明な点につきましては、会員管理システム問合せ窓口までお問合せください。



株式会社コンベンションリンケージとの契約は単年度となっています。ご意見やご要望がございましたら、随時、日本認知療法・認知行動療法学会事務局までお寄せいただければ幸いです。

なお、2017年1月1日をもって事務局長は井上から岡田佳詠氏に引き継がれます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

【注】

会員向けWebサイト

https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/cl_jact

入会申込フォーム

https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/cl_jact

会員管理システム問合せ窓口

jact-smms@secretariat.ne.jp

第17回日本認知療法・認知行動療法学会 開催のご案内

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター 中川敦夫

本年7月21日（金）から23日（日）まで、新宿の京王プラザホテルで開催される学会年次大会〈第17回日本認知療法・認知行動療法学会（7/21-22）並びに第18回日本認知療法研修会（7/23・NSスカイカンファレンス）〉の大会長を務めます慶應義塾大学の中川敦夫です。どうぞ、よろしくお願い致します。なお、本大会の開催時期は例年の秋開催よりも早い時期での開催となりますので、ご注意下さい（一般演題申し込み期間：2017年1月11日（水）～3月1日（水）[<http://www.c-linkage.co.jp/mdct2017/index.html>]）。

本大会の最大の特徴は、日本うつ病学会（大会長：慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、三村將教授）との合同開催であることです。日本うつ病学会との合同開催は、2015年に次いで2回目となります。今回の合同大会のテーマは、「サイエンスとアートの新たな融合」といたしました。「アート（art）」は一般的に「芸術」と訳されますが、その他に「巧み、（専門）技術」という意味もあります。今日の医学教育の基礎を築いたWilliam Osler博士（1849-1919）は、

「臨床実践はサイエンスに基礎を置くアートである」という言葉を残していますが、これは、医療に限らず生身の人に携わる様々な領域の専門職において大切な共通の視点と言えます。いくら〇〇療法の有効性を示す「サイエンス」があっても、それを実践できる技能（アート）がなければ絵に描いた餅となります。逆に、いくら巧みな技能（アート）があっても、その治療自体に妥当性・有効性を示す「サイエンス」がなければ意味をなしません。すなわち、「サイエンス」と「アート」は車の両輪のように2つを両立させてこそ、その双方の発展がかなっていきます。私たちが関わっている領域の課題に目をむけますと、例えば認知療法・認知行動療法の普及と unmet needs, チーム医療での認知療法・認知行動療法の実践, 認知療法・認知行動療法の質管理と研修法, 認知療法・認知行動療法による治療反応の限界や予防的視点を取り入れた展開など、対応すべき課題はまだ多く残されています。このような見地から、本合同大会においてこれらの様々な領域の「アート」と「サイエンス」を融合させ、多くの方々にとって新たな発見やきっかけを得る場となっただけならばと願っております。

日本認知療法・認知行動療学会と日本うつ病学会の会員は、医師や研究者のみならず、保健師、看護師、心理職、そして産業や教育など様々な領域の人々やその関係者から構成されており、極めて多様です。合同で大会を開催することの意義は、このような多様な会員が短期間に多様な学術情報の収集や交換ができるといった効率性だけではなく、合同開催だからこそできるそれぞれの学会の特色を融合したシンポジウムや教育講演、ケーススタディなどのプログラムを企画できるのも強みかと思えます。うつ病やその治療を精神医学や臨床心理学を超えた視点からみるという意味で、合同大会招待講演には医療人類学者の慶應義塾大学文学部教授の北中淳子先生、そして合同大会教育講演には禅僧の藤田一照先生にお願いし、快くお引き受けいただきました。また合同シンポジウムとしましては、「うつ病を考える：biology, psychology, psychopathology から」、「うつ病治療最適化—エビデンスと臨床経験からの再考—」、「うつ病とライフステージ」の3つを企画しております。学会企画シンポジウムとしては「うつ病に対する第三世代認知行動療法—概念、適用、そして限界—」、「慢性うつ病に対する精神療法」、「統

第14回日本うつ病学会総会
第17回日本認知療法・認知行動療学会
|合同開催|

サイエンスとアートの 新たな融合

第14回日本うつ病学会総会
会長 三村 将
慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

第17回日本認知療法・認知行動療学会
会長 中川 敦夫
慶應義塾大学病院臨床推進センター

夏空担当
佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

2017年(平成29年)
7/21(金)・22(土)・23(日)

京王プラザホテル(7月21日(金)・22日(土))
東京都新宿区西新宿2-2-1 TEL: 03-3344-0111

NSスカイカンファレンス(7月23日(日))
東京都新宿区西新宿2-2-1 新宿NSビル30F TEL: 03-3342-4020

演題受付期間
2017年1/11(水) ▶ 3/1(水) ※予定
(※14日および15日受付終了、※17日日本認知療法・認知行動療学会 共催)

合失調症の認知行動療法 (CBTp)」、「身体疾患へのCBTの展開」、「公認心理師と認知療法・認知行動療法」、「医師卒後教育・専門医研修と精神療法」の計6つを予定し、2つの自主企画シンポジウムの準備もしています。その他にも5つの教育講演、5つのケーススタディ、そして口演・ポスターの一般演題などが予定されています。なお、うつ病学会企画シンポジウムとしては、「うつ病治療ガイドラインをどう読み、どう使うか」、「うつ病による休職再考—その必要性と判断—」、「発達障害の成り立ちから考える成人のうつ病治療」、「うつ病患者の家族へのアプローチ・家族療法」、「うつ病・双極性障害の当事者が望む治療」、「うつ病・双極性障害と認知症」、「周産期のうつ」、「うつとポジティブ・サイコロジー」が企画されています。

このように若干タイトなスケジュールとなりそうで恐縮ですが、内容は極めて充実しており、ご参加の皆様には、きっと実り多く満足いただけるものと確信しております。夏空がまぶしい頃の新宿であります、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。